

教育論文や実践報告を作成するための参考資料

公益財団法人 日本教育公務員弘済会 滋賀支部

1 教育論文・実践報告を作成するねらい

教育活動は計画的かつ持続的な活動です。その活動の成果は子どもたちの姿に現れなければなりません。未来に生きる子どもたちに成長と学習の機会をとらえた教育がなされることが必要なものであり、教育実践は常に見直し工夫改善されることが求められます。

この工夫改善を「見える化」するのが教育論文や実践報告です。「見える化」することでよい実践が広まり、教育活動の充実発展に寄与します。このことを目的に、弘済会滋賀支部は「弘済会しが教育賞」事業に取り組み、県内の幼稚園・小学校・中学校・高等学校・義務教育学校・特別支援学校および教育機関の教職員を対象に「教育論文」と「実践報告」を募集しています。

2 教育論文・実践報告で示したい子どもたちの姿

「理論研究」や「調査研究」など、多様な研究論文が想定されますが、弘済会滋賀支部が募集する教育論文や実践報告は「日常の教育実践に基づき論ずる」ことを主眼としています。難しく考えずに、日頃の教育実践と成果をありのままに記述することから取り組んでください。

教職員は、子どもとの関わりを大切にしながら教育活動を進めます。教育活動での学びから子どもたちが「できた」「わかった」「もっとやりたい」と変容していくことが大切です。「子どもの姿」についての記述から変容の様子が表現されることを求めます。成長する「子どもの姿」が見える教育論文や実践報告が応募されることを期待します。

3 教育論文の表現（学校部門、個人・グループ部門）

（1）内容

教育課題や研究課題について、理論のもとに仮説を立てて検証し、その結果と考察から課題解決を目指すことに重点をおきます。研究手法としては、大前提から結論を推論する演繹的思考によるものとなります。

教育論文として備えたい要件としては、先行研究や参考文献などを基に、自らの研究がどのような位置付けであるのかを明確にすることが必要です。また、研究仮説を設定しますが、この仮説の設定により、論文の客観性や妥当性が問われることとなります。

（2）構成

文言に差異はありますが、教育論文の構成について特に形式が定められていない場合には、次のような配列で構成されることが多いようです。実践に応じて工夫してください。

（例）

1 研究主題設定の理由	← 「はじめに」とする場合もあります。なぜこの研究に取り組もうとしたのかを示します。
2 研究の構想	
（1）研究のねらい	
（2）研究の仮説	← 必要に応じて項立てがなされます。
（3）研究の計画	
3 研究の実際（内容）	← 研究内容について具体的に述べます。
4 研究のまとめ	← 最後に「結果の考察」を述べます。
（1）研究の成果	研究内容と関連させた記述が求められます。
（2）今後の課題	（「はじめに」と設定した場合には「おわりに」とします。）
○ 参考文献	← 主題設定や実践の参考とした文献を示します。

（3）研究主題の設定

ア 研究主題の条件 研究主題の条件として、以下の点が挙げられます。

- ・研究として課題設定される状況を的確にとらえているもの。
- ・研究全体の方向や目的、価値の存在がとらえられるもの。
- ・研究する内容が具体化され、焦点化されているもの。

イ 表記上の留意点

- (ア)用語は一般に広く通用するもので、特殊な言葉や研究者等の造語は使用しません。
(必要な場合は「」で示される場合があります。)
- (イ)抽象的で幅の広い意味を含む語や、複数の意味を含む語は使用に適しません。使用する場合は、その語の定義を本文中で明確にします。
- (ウ)研究主題で十分に表現しきれない場合は、副主題を設けることで焦点を明確にします。

(例) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造
～第〇学年「〇〇〇」の学習を通して～

(4) 研究仮説の設定

研究仮説は、実践をもとに検証されるのであり、内容が明確で具体的な表現となることが求められます。研究仮説のモデルを下記に示しますが、この中の「研究の方法や手立て」が、研究の中心的内容とであることを意識することが大切です。

(研究対象)	→	(研究の方法、手立て)	→	(目指す子どもの姿)
〇〇〇において、	→	□□することによって、	→	☆☆になるであろう

(5) 研究の実際 (内容)

記述はできるだけ具体的であり、実践した内容が読み手に理解されるよう表現します。そのためには、写真や子どもたちの感想を取り入れて表現することも有効です。また、実践後のアンケート等を集約し表やグラフにまとめるなどして記載すると、より実践の成果を論述する上で効果的です。

複数の仮説を設定した場合には、それぞれの仮説に大項目を設定して論ずるのが一般的ですが、わかりやすさを基準にして内容に応じた工夫をすることも必要となります。

(6) 結果の考察

考察とは、自らの実践について実践者としての仮説に基づく評価です。考察が不十分であると、未解決である課題が明確になりません。また、その後の実践や研究も成果を積み上げていくことになりません。教育論文にまとめる大きなねらいは「考察」にあります。仮説に基づき見いだせた成果を根拠をもとに示し、また残された課題や実践の工夫改善についての今後の方向性を記述することで、読み手の実践改善の参考となります。

ア 仮説の考察 (実証的検証)

実践は、指導する立場から、また学び手である子どもたちの立場からなど、その立ち位置により多くの要素により構成されています。常に仮説を前提として実践を考察することで、研究成果と課題が関連付けられるとともに、実践の状況が明確に表現されることとなります。

また、実践から得られたデータや状況について仮説を前提とした分析を行い、成果と課題を検証することで明確な事実を示すことができます。これらを基に仮説の妥当性・有効性なども記述できます。

イ 考察での配慮事項

- (ア) 子どもの変容から事実をとらえる。

本論の中から子どもの変容の状況についてまとめ、仮説の有効性を記述します。都合のよいデータのみを取り扱うのでは、仮説の有効性や成果、課題はあいまいな捉え方となります。

- (イ) 必ず事実と対応させて実践の成果と課題を考察する。

事実とは、数量化されたデータだけではなくありません。子どものノートや作品、発表等もあります。考察の根拠となる事実を適切に示すことが大切です。

- (ウ) 事実と推測を明確に区別して述べる。

子どもの表情や雰囲気から推測される内容もあります。その場合は、「～のように感じられた。」等、推測であることが理解されるように述べる必要があります。

- (エ) 事実を客観的に受け入れる。

仮説についての肯定的な事実だけでなく、否定する事実も取り上げて考察することも大切です。このことにより、これから取り組む教育実践での課題設定や工夫改善の方向性を見出すことにつながります。

4 実践報告の表現（ユース部門）

（1）内容

日常の実践的教育活動を継続的系統的に積み上げ、その過程と結果を記録することに重点をおくものであり、個々の事実から一般的な原理や法則を導く帰納的な研究手法をとります。

（2）構成

実践報告では「(研究の)主題設定の理由」、「(研究の)内容と方法」、「(研究の)成果と課題(実践のまとめ)」といった構成が考えられます。これらの構成を参考に、実践した内容が読み手に伝わるよう自分なりに項立てを工夫してもかまいません。

（3）実践報告として備えたい要件

ア 主題設定の理由（実践の目的を明らかにする）

実践報告は、実践の過程と結果を記録することに主眼がおかれます。しかし、1つの研究としてまとめるには、例えば子どもたちにどのような力を身に付けさせるのかといった課題意識のもと日々実践に取り組み、その目的やねらい、価値付けを明確にしていく必要があります。

イ 内容と方法（実践の内容と方法を示す）

実践報告であっても子どもたちの実態を踏まえた具体的なねらい(目指す姿)を設定し、そのねらいの達成に向けて実践し、また考察においても客観的なデータを基にねらいが達成されたかどうかを検証していくという一貫性が大切です。そのためには、実践上の視点(子どもたちの実態をふまえ、どんな学習内容を設定するか)、どのような方法で学習するのか、学習展開での工夫などが明示されていることが必要です。

ウ 成果と課題（実践結果の考察）

実践の経過や結果をもとに考察を記述するには、具体的に子どもの変容の状況をわかりやすく論じることが大切です。そのためには、あらかじめ設定された評価規準等により、子どもの変容を観察し評価(学習の前と後の状況変容)していくことや、どのような指導や工夫が有効であったかについて検証方法を明確にして示す必要があります。指導者の主観による表現にならないよう、客観的なデータ等を基に検証し考察することは実践報告においても大切です。

5 教育論文や実践報告を作成するときの主な留意事項

（1）読み手を意識した分かりやすい表現に努めましょう。

教育論文や実践報告の価値は、読み手となる他の教職員の参考になることです。読み手が理解して実践に活かしてもらえることが大切なのであり、このことを意識した記述が求められます。

（2）用語に頼りすぎないようにしましょう。

教育用語の多くは、教育に関する著作や論説等の中で新たに創り出されてきます。新しい用語の説明や、その例を取り上げるだけの記述にならないように配慮することが必要です。

（3）文体は常体（～である。～と思われる。等）が一般的です。

常体による簡潔な表現が読みやすく、また記載内容の理解のしやすさにもつながります。

（4）誤字・脱字に気を付けるとともに、表記した用字や用語に誤りがないか確認しましょう。

（5）項立ての見出し符号は次のような順序が一般的です。

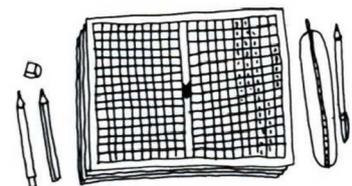
1 ○○○・・・

(1)○○○・・・

ア ○○○・・・

(ア)○○○・・・

a ○○○・・・



（6）引用した文献（参考文献）は必ず明記しなければなりません。

発行年、著者名、文献名、発行社 等の情報を表記し、他者がその文献を検索し活用できるようにします。研究についての先達への敬意が大切です。

（参考文献）鹿児島県教育庁鹿児島教育事務所「教育論文・教育実践記録のしおり」